

桐生市議会 創志会 行政視察報告書

視察都市	青森県 八戸市
視察日時	令和 4 年 4 月 19 日 (火) 9 時 30 分 ～ 11 時 00 分
訪問先	八戸市役所 〒031-8686 青森県八戸市内丸 1-1-1 Tel. 0178-43-2111
参加者	人見武男 佐藤光好 園田基博 石渡宏明 北川久人 工藤英人
視察項目	八戸市協働のまちづくり基本条例について

■ 視察内容:

◎ 面談者:

八戸市 総合政策部 市民連携推進課 Gr. リーダー 佐々木 淳一 様

八戸市 総合政策部 市民連携推進課 藤井 駿 様

八戸市 市議会 議長 寺地 則行 様

八戸市 議会事務局 議事調査課 主査 中嶋 拓史 様

◎ 八戸市の概要: <https://www.city.hachinohe.aomori.jp/>

人口 223,040 人 (令和 4 年 2 月末現在)、面積 305.56km²。県庁所在地のある青森市、県内人口 3 位の弘前市と共に、青森県内の主要 3 市の一角を構成する中核市。盛んな漁業のメインは鯖やイカ。縄文遺跡世界遺産に認定された是川遺跡、初春の神事として行われる予祝芸能「えんぶり」、三陸復興の起点として福島までを繋いだモノレール、等が PR ポイント。



↑ 八戸市役所全景、是川遺跡の表示、自らを「縄文顔」とされた議長、対応下さった市職員皆さま。

◎ 「八戸市協働のまちづくり基本条例」について：

https://www.city.hachinohe.aomori.jp/kurashi_tetsuzuki/kyodonomachizukuri/8972.html

- ・ 市民と行政の協働によるまちづくりを推進するため、平成 15 年に市民会議を組織し検討開始。平成 16 年 7 月に条例案への答申を受け、同年 9 月議会で可決。平成 17 年 4 月 1 日から施行。
- ・ 前文の他、全 25 条で構成され、八戸市のまちづくり基本理念を念頭に、市と市民および事業者との協働によるまちづくりと行政運営の原則を定めている。
- ・ 条例内容は第 1～10 章で構成。(総則、基本理念、権利及び責務、情報共有の原則、協働の手法、協働の推進、評価制度、条例の位置づけ、協働のまちづくり推進委員会、雑則)
- ・ 市民連携推進課の中に地域連携グループを新規創設。地域コミュニティの振興促進を主眼として取り組んできている。
- ・ 基本理念を策定するため、協働のまちづくり市民会議を組織し市民や学識経験者などに力を貸していただいていた経緯あり。市役所は庁内連絡会議のなかで連携協働を図ってきた。
- ・ 始めのルール作りから市民協力を募り、一緒に作り上げてきたもの。すべてをゼロから市民が作り上げるというコンセプトのもと委員自ら積極的に活動を展開。
- ・ 協働のまちづくり推進施策：
 1. 協働の街づくりの推進
 - (ア) 市民奨励金書類審査会・協働のまちづくり施策の検証
 - (イ) 協働のまちづくり研修会
 - (ウ) 協働のまちづくり推進基金
 - ・ いただいた基金に対しては、市から同額を一般会計から基金に支出している
 2. 市民活動・ボランティア活動の推進
 - (ア) 市民活動サポートセンター「わいぐ」運営（平成 14 年～）
 - (イ) 元気な八戸づくり市民奨励金制度
 - ・ 初動期支援・若者支援コース 10 万円以内(補助率 100%)
 - ・ まちづくり支援コース 50 万円以内（補助率 80%）
 - (ウ) 元気な八戸づくり市民提案制度
 - ・ 市設定テーマ部門と自由提案部門に大別、2 年計画推進
 3. 地域コミュニティの振興
 - (ア) 町内会支援（連町連絡協議会との連携）
 - ・ 各種団体との意見交換・連携

- ・町内会加入促進月間
- ・講座等の開催

(イ)「地域の底力」実践プロジェクト推進事業

- ・人材や文化伝統自然等の地域資源を生かした課題解決、地域活性化に向け、自主的に取組む地域を継続的に支援。市長自ら率先し会議参加、プロジェクト・チームを編成（是川縄文プロジェクト 2021 縄文にちなんだトレイルコースの設定、トレイルマップの作成、ウォークイベントを開催）
- ・地域担当職員制度
 - ⇒ 地域づくり会議への出席
 - ⇒ 地域コミュニティ活動への助言
 - ⇒ 町内会からの意見・要望の受付及び担当課取次
 - ⇒ 24 地区公民館の対象地域毎 2 名、通常業務と兼務



【質疑応答】

- Q ユニークな地域担当職員制度であるが、地域によって活動の盛んなところ・そうではないところといった格差は生じていないか？（石渡）
- A やはり人。人によるところが多い。参加・加入率含め、啓発活動を一貫して継続、心掛けている。
- Q 緊急性を伴う案件、例えば昨今ではウクライナ避難民の受入れ支援等が想起されるが、そうした突発性要素ある事案への対応は？（園田）
- A 必ずしも制度設計に捉われることなく、柔軟な対応を都度判断、実行していく姿勢で万事臨んできている。
- Q PFI や SIB といった手法との棲分けをどう考えているか？（園田）
- A 成果指標の設定や達成ゴールの評価が重要であると考える一方で、まずは「やってみることに意義を見出す」ことにいま重きを置いている。
- Q 参加者を募る手法に何か特別な工夫を施しているか？（北川）
- A その苦労は恐らくは様々な自治体と同様にある。地道な呼び掛けを継続し、諦めることなく熱意を持って取り組んでいきたいと考えている。

◎ 議会議事堂の視察：



↑ ホワイトの色調で統一がされた、明るい中にも重厚感ある議会議事堂

■ 行政視察 所感：

- ◎ 「協働」という言葉の定義から始まる市職員を対象としたマニュアル整備は圧巻のボリュームを誇っていた。
- ◎ その上で、単なるマニュアル上に留まることのない地域に飛び込む「地域担当職員制度」については、地元を愛する者同士の交流と結束を醸成・昇華させる独自の取組みとして、自身に立ち返って考えてみたとしても、非常に好印象を抱けるものであった。
- ◎ その一方で、担当される職員方々に増すであろう業務負荷は想像に難しくなく、人口減に悩まされる地方自治体にあっては共通となる、コミュニティ存続に向けての模索案のひとつであると考え、今後の動向に注目していきたい。

■ 視察成果による当局への提言または要望等：

八戸市が取り組む「協働」事業の精神は、市民ひとり一人を市の構成員として漏らさず取込み、それがあたかも家族一員のごとくまた、ある種企業のような集合体における行動理念の創設やCSR（Corporate Social Responsibility）浸透といった考え方にも通ずる、非常に魅力に溢れたユニークなものである。

その一方で、そうした活動の牽引役を担っておられる市職員の方々の労務負荷が高いであろうことは言うまでもなく、それが果たして各種ボランティアや各町会役員等、はたまた各地元から選出の市議会議員といったメンバーによる活動領域において皆が通常寄せているのであろう、期待値を既にとっくに凌駕をしてしまっているのではないか、という率直な念は禁じ得ない。

しかしながら、そこまで地域に溶け込み・飛び込む姿勢を持って、全庁一丸となって地域の発展を心から願い取り組んでいる、こうした自治体が実際に存在をしているということ、特にはその徹底した利他の精神についてはやはり、見習うべき点は数多くあるものとする。とかく紋切り、縦割り、排他的等と揶揄をされ、言われなき物言いに対し憤慨をする機会があるとも耳にするが、いったいどれだけ市民に寄り添っているのか、どれだけ同じ目線で物事に接することができるのか、そうした原点に立ち返る契機のひとつとしても、同市の活動内容については是非注視を頂き、そこから反映できる点等については是非、わが市に取込む弛まぬ努力と実行力をご期待申し上げたい。

以上